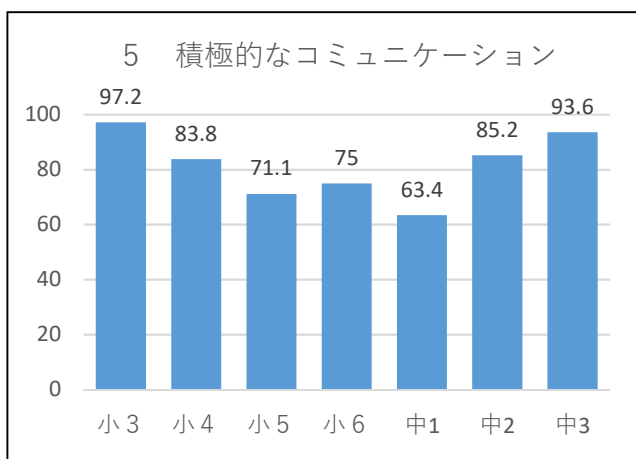
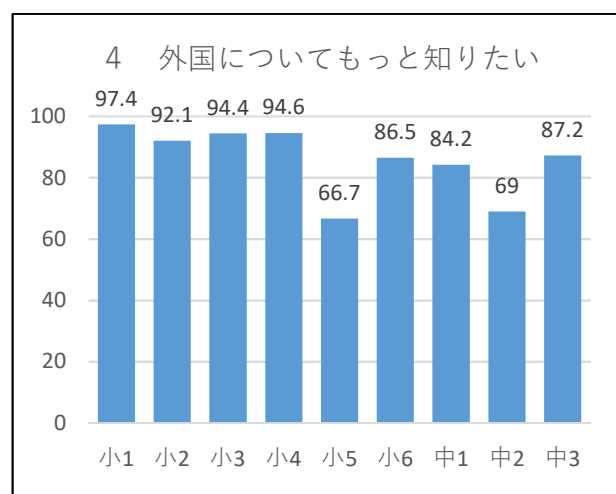
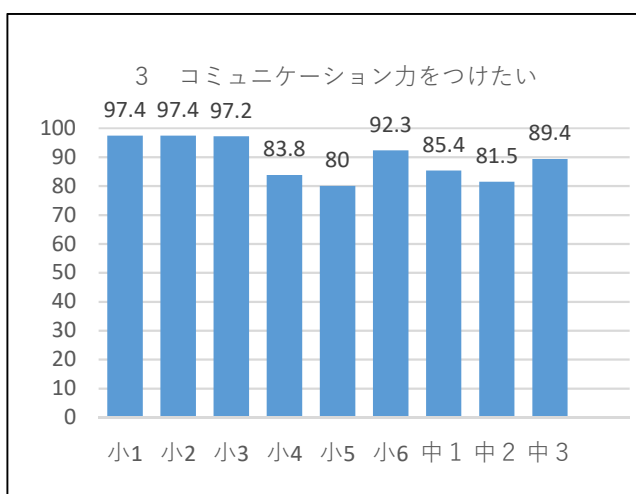
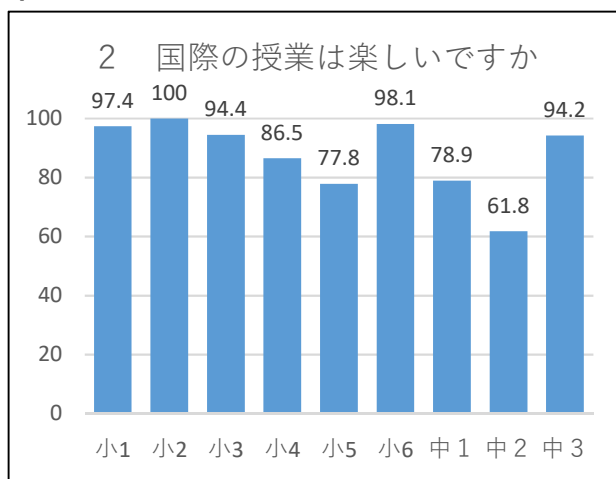
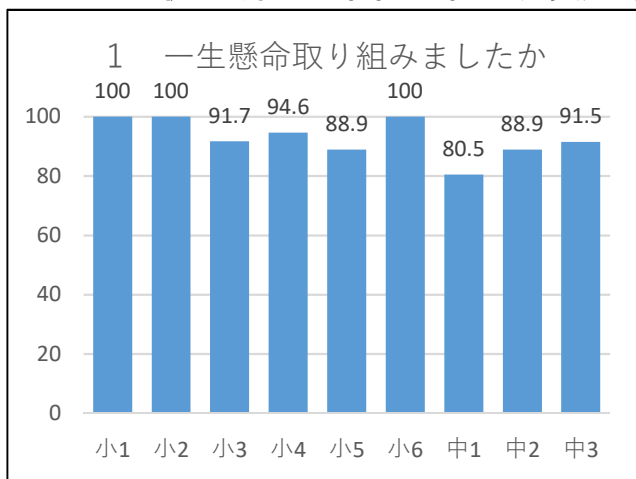


# 令和5年度 特設教科「国際・情報」 評価と考察【国際分野】

白い森おぐに保小中高一貫教育協議会

## 1 児童・生徒意識調査(令和5年12月実施)結果から



○アンケートは4段階で実施。グラフの数値はそれぞれの質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合(%)。  
○質問5は小3～中3のみを対象に実施。

小学校、中学校ともに、概ね計画に従い、和やかな雰囲気の中で授業が行われた。全体として児童、生徒は学習にしっかりと取り組んだ。

小学校においては、どの質問に対しても、学年が上がる毎に肯定的な回答の割合が低

下する右肩下がりの傾向があったが、今年度は6年生の学習へのモチベーションが高いという嬉しい結果が見られた。5,6年生については、今年度からスタートした「どきどきCommunication Time」での意欲的な活動も見られ、徐々にコミュニケーションに積極的に取り組む姿も見られるようになってきた。日常の授業において、さらに興味を喚起する教材提示や、ゲーム性を持たせた練習活動等を仕組み、賞賛と激励を繰り返し粘り強く指導にあたっていく。

中学校においては、1年生の肯定的な回答が低いという傾向があったが、今年度は改善の兆しが見られる結果となった。今年度、1,2年生の国際の時間を10時間削減したが、生徒の意識に大きな変容は見られなかった。限られた時間の中で、より効果的な学習活動となるよう、オンライン国際交流やスピーチ発表会等、学習のゴールを明確にし、Reading教

材の内容変更、フリートalkingのトピックの工夫など、指導過程を改善しつつ、学習意欲を喚起し、スキルアップを目指す。

## 2 令和5年度全国学力・学習状況調査【中学3年生】結果から

令和5年度全国学力調査（英語）	本町	山形県	全国
平均正答率	45%	41%	45.6%

令和5年度全国学力調査（英語：話すこと）	本町	山形県	全国
平均正答率	16%		12.4%

令和5年度全国学力・学習状況調査 学習状況調査アンケート（中学3年生）

\*数値は「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	英語の勉強は好きですか。	55.6	50.9	51.9
2	英語の勉強は大切だと思いますか。	87	85.7	88
3	英語の授業の内容はよくわかりますか。	72.2	60.2	63.9
4	英語の授業で学習したことは将来役に立つと思いますか。	87.1	85.9	87.5
5	1, 2年生の時受けた授業では原稿などを準備することなく（即興で）自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動が行われていたと思いますか。	79.6	61.1	63.8
6	1, 2年生の時受けた授業ではスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動がおこなわれていたと思いますか。	87.0	79.1	78.7
7	1, 2年生の時受けた授業では自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか。	92.6	84.5	82.8
8	1, 2年生の時受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動がおこなわれていたと思いますか。	88.9	80.2	80.7
9	1, 2年生の時受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語でまとめたり、自分の考えを英語で書いたりする活動がおこなわれていたと思いますか。	90.8	80.4	79.3

中学3年生の全国学力調査（英語）における正答率は県平均を上回ったものの全国平均をわずかながら下回る結果となった。思考力や表現力求められる問題に対して、中下位の生徒の正答率に伸び悩みがみられた。今年3月に実施された標準学力検査（NRT）においては、本町3年生の平均偏差値が51.9と、全国平均を上回る結果となっている。

全体的に基礎的・基本的英語力は身につけてきているが、基礎基本を活用する思考力や柔軟な表現力が課題であると思われる。

全国学力調査（英語）「話すこと」については全国平均を上回る結果となった。1, 2年時の授業についての質問では、自分の考えや気持ちなどを話す、書く、やりとりする表現活動がしっかり行われている状況がうかがえる。

本町では保育園年中児をスタートに、小学校においても、少々の間違いや失敗を許容しながら、コミュニケーションを楽しみ、積極的に表現することを奨励する英語活動、国際的授業を継続してきている。その積み上げを踏まえて、中学校「国際」の授業においては、全学年で英語による即興的なやりとりを行う活動や自己表現を中心とした活動等を多く取り入れ、表現力、コミュニケーション力の向上を図ってきた。この方向性が一定の成果を残したと考える。日常の英語授業に加えて「国際」の授業における即興的な会話練習や自己表現活動の成果の表れである。

小学校5, 6年生は「どきどき Communication Time」、中学生はスピーチ発表会、オンライン国際交流など、英語でのコミュニケーションを実践する場を学習のゴールに位置づけ、学びの道しるべとしながら児童・生徒の学びをつないでいく。

# 令和5年度 特設教科「国際・情報」 評価と考察【情報分野】

白い森おぐに保小中高一貫教育協議会

## 1 令和5年度全国学力・学習状況調査【小学6年生】 結果から

令和5年度全国学力・学習状況調査 学習状況調査アンケート（小学6年生）

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	5年生までに受けた授業でPC、タブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか	54.4	18.9	28.2

\*数値は「ほぼ毎日」と回答した児童の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
2	学習の中でPC、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	100	96.3	95.1

\*数値は「役に立つ」「どちらかと言えば役に立つ」と肯定的に回答した児童の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
3	学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれぐらいの時間PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊び等の目的に使う時間は除く。）	68.4	44.9	41.1

\*数値は「30分以上」と回答した児童の%

授業でのICT機器の活用が確実に推進されICT機器の活用が日常化していることが確認できる。また、活用を通してすべての児童が、学習のツールとして効果的であることを実感している。家庭での学習にも、機器を活用する習慣が浸透してきていることがうかがえる結果となった。機器を活用した学習が当たり前になっていく状況の中で、今後はより効果的な活用のさせ方など、活用の質的な向上を図りたい。

## 2 令和5年度全国学力・学習状況調査【中学3年生】 結果から

令和5年度全国学力・学習状況調査 学習状況調査アンケート（中学3年生）

No	質問項目	本町	山形県	全国
1	1, 2年生の時に受けた授業でPC、タブレット等のICT機器を、どの程度使用しましたか	81.5	53.3	61.0

\*数値は「週3回以上」と回答した生徒の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
2	学習の中でPC、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	96.3 (77.8)	93.8 (59.1)	93.3 (58.7)

\*数値は「役に立つ」「どちらかと言えば役に立つ」と肯定的に回答した生徒の%

( )の数値は「役に立つ」と強く肯定した生徒の%

No	質問項目	本町	山形県	全国
3	学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれぐらいの時間PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊び等の目的に使う時間は除く。）	26.0	30.5	37.2

\*数値は「30分以上」と回答した生徒の%

授業での ICT 機器の活用が確実に推進されていることが確認できる。また、活用を通して多くの生徒が、学習のツールとして効果的であることを強く実感している。しかし、家庭での学習に機器を活用するまでには至っていない状況である。今後は、授業におけるより効果的な活用のさせ方など、活用に質的な向上を図りながら、家庭学習での Navima (学習用 AI ドリル) 等の活用を推進したい。

### 3 全体として

指導要領の改訂に伴い、教育現場では教育課程の全般に渡って ICT 機器活用の推進が広く求められている。情報教育が特別なものではなくなってきた流れの中で、本町では ICT 機器活用の基本的スキルを系統的、計画的に学ばせ、各教科、領域での児童生徒の学習活動を円滑に効果的に進めることをねらいに、あえて特設教科として位置づけている。さらには、適正な情報活用力と情報モラルを身につけ、情報化社会を適切に生き抜く力を身につけさせたいねらいもある。

全国学習状況調査の結果からは、特設教科による計画的な指導により、児童生徒 ICT 機器活用スキルを向上させ、先生方も機器を幅広く活用しようとしていることがうかがえる。

昨年度、より系統的に ICT 機器活用スキルの向上を図るために、情報分野の指導計画の見直しを図った。今年度は各校で、その指導計画に則り、確実に授業を実施する体制づくりが進められた。また、情報推進部による、児童・生徒の機器活用能力を適切に評価し指導に生かす評価表・チェックリストの作成、活用が進められた。評価のあり方にはさらに検討が必要で、情報推進部が継続的に検討を進めていく。